属人性を排除した「保守」の効率化と価値を生む「改修」へのプロセス改革 実践と 事例講座【会場】 (4125128)

現在のソフトウェア部門の業務は、新規開発や長い期間をかけるいわゆる開発よりも、既存のソフトウェアを活用した「改修」や「保守的な開発」が多いのが現状です。そもそも、「保守」・「改修」は、新規開発等とは大きく異なる作業が存在します。 「保守」「改修」のスペシャリストとして人生を捧げている講師より、講義と演習を通して学ぶ講座です。

開催日時	2025年10月8日(水) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	要件定義から運用(保守)
カテゴリー	IS導入(構築)・IS保守 <mark>専門スキル</mark>
講師	馬場辰男 氏 (ソフトウェア・メインテナンス研究会 幹事) ・1977年 資源・エネルギー会社のIT子会社(現株式会社NTTデータCCS)に入社し、石油資源探査システム、金属資源探鉱システム等の開発、数値解析業務に従事・1997年 同社科学技術システム事業部科学環境システム部部長・2002年 日本規格協会 JIS X0161 (ソフトウェア保守)原案作成委員会委員・2008年 日本規格協会 JIS X0161 ソフトウェア保守プロセス(SMT)委員会委員・2008年 株式会社NTTデータCCS 執行役員・科学ソリューション事業本部本部長・2014年 株式会社NTTデータCCS 顧問・2016年 株式会社地圏環境テクノロジー 顧問およびITコンサルタント(個人事業主) 第1種情報処理技術者、ISMS主任審査員、QMS主任審査員
参加費	JUAS会員/ITC:35,200円 一般:45,100円(1名様あたり 消費税込み、テキスト込み)【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(NBF東銀座スクエア2F)
対象	保守・改修にかかわる、情報システムグループ会社管理者、システムインテグレータ管理者の方など、「保守・改修」で攻める組織になる改革推進の方 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

会場のみ(オンラインなし)

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

本コースの特徴

- (1) 属人性を排除した「保守」の効率化ノウハウを習得(業務効率化、生産性向上、コストダウン)
- (2) 更に価値を生む「改修」への仕組みノウハウを習得(考える・提案する組織改革、人財育成改革事例)
- (3) ISO/IEC/IEEE14764 (JIS X0161) をベースに、広義の保守(「改修」を含む)作業の理解を深める
- (4) 「保守」「改修」を阻害する要素 技術的負債の概念を習得
- (5)業務改善計画書を作成し、自社に持ち帰れる

現在のソフトウェア部門の業務は、新規開発や長い期間をかけるいわゆる開発よりも、既存のソフトウェアを活用した「改修」や「保守的な開発」が多いのが現状です。

そもそも、「保守」・「改修」は、新規開発等とは大きく異なる作業が存在します。

既存システムの把握、既存システムの品質のレベル、構成要素間の複雑度、整合性 等々に応じた整合性の確保等が必要となります。

その作業には難しさを伴うことが多いにもかかわらず、保守用のプロセスや体制が未整備で、担当技術者の努力に頼っているのが現状です。 難しさを共有できず、技術者頼りにしていると、モチベーションの低下にもつながり、 「保守」・「改修」での重大事故の恐れも高くなります。

特に「改修」の作業効率化により、より低コスト・短期間で既存ソフトウェアの価値を高めることができるため、効率化に向けた仕組みからの改善が大切になります。

更に、近年組織のDX化が進む中、「技術的負債」に注目が集まっております。

技術的負債とは、開発保守において「効率」だけを重視した結果、システムの複雑化を招き、保守運用や開発コストの肥大化を招いた状況です。

そのようならないための対策が必要です。

そこで今回は、「保守」・「改修」について

- 1. 「保守」・「改修」を含む広義の保守とは(ソフトウェア保守規格を参照)
- 2. 属人性を排除した「保守」の効率化ノウハウ (業務効率化、生産性向上とコストダウン)
- 3. 更に価値を生む「改修」への仕組みノウハウ(考える・提案する組織改革、人材育成改革:事例)
- 4. 技術的負債の評価と対処方法
- 5. 業務改善計画書作成

について、「保守」「改修」のスペシャリストとして人生を捧げている 講師より、講義と演習を通して学ぶ講座をご用意いたしました。

「保守」・「改修」にかかわる、情報システムグループ会社管理者、システムインテグレータ管理者の方など、 「保守・改修」で攻める組織になる改革推進の方、ぜひご参加ください。

◆内容・スケジュール◆

- 1. ソフトウェア保守の定義について
- ・ソフトウェア保守の国際規格ISO/IEC/IEEE14764の定義
- ・「保守」「改修」は広義のソフトウェア保守の仲間
- ・広義のソフトウェア保守の多様性
- ・広義のソフトウェア保守の現状(JUAS調査より)
- 2. 「保守」「改修」のプロセスとは
- ・同国際規格のソフトウェア保守プロセスとは
- ・ソフトウェア保守プロセスの詳細
- ・「保守」も「改修」もプロセスは基本要素は同じ
- 3. 「保守」「改修」のコスト構造について
- ・「改修」見積の事例演習(個人⇒グループ⇒全体)
- ・新規開発のコスト構造との相違点の整理
- 4. 属人性を排除した「保守」の対応ノウハウとは
- ・積極的な維持する保守(維持保守)とは
- ・積極的な維持保守の効果
- ・積極的な維持保守の対応事例
- ・維持する保守の対応ノウハウ(演習)
- 5. 更に価値を生む「改修」の効率化ノウハウとは
- ・ソフトウェアの価値の考え方
- ・ソフトウェアの価値を変化させる要因
- ・急激な変化に対応する「改修」対応に必要な要素
- ・プロアクティブエンハンスとは
- ・プロアクティブエンハンスの効果
- ・プロアクティブエンハンスの効果的な進め方
- ・プロアクティブエンハンスの対応事例

- 6. 「改修」の効率化を更に進める仕組みとは
- ・「改修」の効率化を更に進める要件とは
- ・「改修」効率化を考える・提案する組織改革とは
- ・目指す組織改革事例
- ・「改修」効率化を実現できる人材育成改革とは
- ・広義のソフトウェア保守に求められるスキル
- ・広義のソフトウェア保守に求められる能力
- ・目指す人財育成のポイント
- 7. 技術的負債の評価と対処方法
- ・技術的負債の概念
- ・技術的負債への取り組み事例
- 技術的負債の評価事例(簡易調査表)
- 8. 業務改革計画概要の作成
- ・演習
- 9. まとめ
- ·「保守」「改修」対応は将来も増加(JUAS調査より)
- ・中長期的成果目標を持ち、攻めの「保守」「改修」を目指す

◆参加者の声◆

- ・保守を体系的に教える講座は少ないが、ほとんどのシステム部門に当てはまるいい内容の講座だった(メーカー)
- ・積極的な維持保守の大切さ、方法が理解できた(金融)
- ・講師のたくさんの事例とユーザー部門としてためになる話や、具体的なアドバイスを頂けたのでよかった(電力)